

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月 1 日
平成 30 年 1 月号



平成 30 年の新春を迎えて



公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 間 洵 誠 一

明けましておめでとうございます。

皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、会員の皆さま方には、日頃、当協会の業務運営に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、農業を取り巻く状況は、担い手の高齢化、後継者不足などによる生産力の低下や少子高齢化による国内消費量の減少など、生産・販売の両面において厳しさを増しています。

このような中で、全国屈指の本県農業を維持・発展させるため、当協会は、関係機関・団体と連携しながら、オール千葉体制での力強い産地づくりを支援する「園芸産地強化事業」、担い手への農地集積・集約を支援する「農地中間管理事業」、青年農業者の確保・育成に向けた「就農支援活動」、生産と加工・販売の一体化や地域資源を活用した新たな産業の創造を促進する「6次産業化推進事業」、生産者が安心して農業に従事できる底支えの役割を果たす「野菜価格安定事業」など、様々な業務に取り組んでいます。

当協会の基幹事業である園芸産地強化事業においては、トマト、ねぎ、にんじん、さつ

まいもなど、本県の主要園芸 7 品目のそれぞれに品目別協議会を設置し、主要産地と密接に連携しながら、出荷規格や出荷箱の統一を図り、また県内産地が一体となった販売促進活動などを積極的に展開しているところがあります。

もう一つの柱である農地中間管理事業においては、農地集積の実績指標の一つである集積目標に対する寄与度の全国順位が平成 27 年度の 33 位から、28 年度は 21 位に上昇しました。29 年度は、現地推進員を 7 名から 10 名に増員し地域の推進体制を更に強化するなど農地貸借の拡大に努めています。

また、新たな取組としては、県産植木の輸出拡大を支援する「千葉県植木輸出相談所」を、八日市場植木組合の協力の下、昨年 9 月に開設したところであります。

当協会としましては、関係者の皆さま方のお力添えを頂きながら、「オール千葉」での生産力・販売力の強化に向け努力してまいりますので、なお、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

終わりに、皆さま方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



2018年のいちごのシーズンが始まります

流通販売課 農業ビジネス推進班
主事 加藤 由香里

県では、新品種「チーバベリー」のデビューを契機に、県産いちごの更なる認知度の向上と、観光客の増加と地域の活性化に向けた取組を進めています。本年度もメディア等への広報活動を展開するとともに、地域連携や外国人観光客の受入強化などの新たな取組も実施します。

1 2018 シーズン版パンフレットの作成

昨年度に引き続き、県産いちごの魅力や、いちご狩りの楽しみ方、県内のいちご狩り園・直売施設などの販売情報を紹介するパンフレットを作成しました。

本年度は、インパクトのある美しい果実の写真とともに、タイトルを「ストロベリーフィールズ ちば」とすることで、県内全域で生産されていることを伝え、「いちご県＝千葉県」のイメージ化を狙います。

1月中旬以降に、県内の JR 主要駅や県内外のイベントなどで配布します。



「チーバベリー」の紹介ページは、希少性が伝わるシックなイメージに仕上げました

2 「ちば♡いちごフェア」の開催

県内のいちご園（いちご狩り園・直売所）と、県産のいちごを使用したスイーツを提供する飲食店や菓子店等が連携し、双方の集客の増加を図る取組を新たに実施します。フェアでは、参加店舗のレシートを専用の応募はがきに貼って投函すると、抽選でチーバくんグッズや県特産品等が当たります。開催時期は2月を予定しています。

3 外国人観光客へのおもてなし向上

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催まで3年を切り、今後ますますの増加が見込まれる外国人観光客の方々に、県内でいちご狩りを楽しんでいただくための取組を実施します。

(1) 生産者向け研修会の開催

いちご園で外国人観光客を受け入れる際に必要な心構えや、所作・動作のポイントなどについて学ぶための、生産者向けの研修会を開催します。参加費は無料です。詳細はお問い合わせください。

・日 時 平成30年1月31日(水)

午後2時30分から

・場 所 農林総合研究センター 農本館A

・問合せ 県流通販売課 電話 043-223-2963

(2) 外国人向けパンフレット・ポスターの作成

2018 シーズン版パンフレットの外国語版（英語版、タイ語版）の作成に加え、いちご狩りの方法やマナーをイラストや記号で紹介するポスターの作成を予定しています。いちご園の受付等に掲示することで、生産者と外国人観光客が言語に頼らなくても円滑にコミュニケーションが図れるツールとして活用いただくことを想定しています。

4 おわりに

昨年新品種「チーバベリー」のデビューは、多くのメディアに取り上げられ、大きな反響がありました。本年度もこの人気を維持するとともに、県産のいちご全体と地域を盛り上げ、「いちごと言えば千葉県！」と国内外の方にイメージしていただけるよう、積極的に取り組んでいきます。



省力・低コストな5月どりダイコンのべたがけ栽培法

農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
東総野菜研究室 研究員 千吉良 敦史

従来5月どりのダイコンは、トンネル栽培が行われてきましたが、近年規模拡大が進む中、省力的なべたがけ栽培が増えています。適切な品種とべたがけ方法によって、2月中旬播種で心配される抽台の発生を抑え、省力・低コストなダイコン栽培が実現できます。

1 はじめに

べたがけ栽培(写真1)では、重いパイプの設置や換気作業の必要がなく、作業時間はトンネル栽培の1/7程度です。しかし、一般的に春どり栽培は低温により抽台が多発しやすい作型であり、花茎が目立つと出荷上問題となります。そこで、べたがけによる春どりダイコンの安定生産技術のポイントを解説します。



写真1 べたがけの様子

2 べたがけ栽培に適した品種

べたがけ栽培では、トンネル栽培ほど温度が上がらないため、抽台しやすくなります。そこで、晩抽性の品種を選ぶことが重要です。東総野菜研究室(千葉県旭市)では、べたがけ栽培に適した品種として、「蒼の砦」(ナント種苗)と「トッランナー」(タキイ種苗)を選定しました。

「蒼の砦」は極晩抽性であり、肌がきれいで揃いと尻詰まりの良い品種です(写真2上)。「トッランナー」は、晩抽性であり、揃いが良く、低温時にも根の伸張が良く、短根になりにくい特徴があります(写真2下)。また、両品種とも、黒斑細菌病などの病害の発生が少ない傾向が見られます。

3 べたがけ資材と被覆方法

抽台を防ぐためには、昇温性の高いべたがけ資材を使用することがポイントです。最近4年間の試験の結果、パスライト(ユニチカ)で高い抽台防止効果が認められています。また、ベタロン(ダイオ化成)の上にパスライトを重ねる2重被覆を行うと、更に効果が高まり、抽台しやすい年でも発生を抑え

ることができます。なお、べたがけは播種時に開始し、4月上旬に除去します。

4 べたがけ栽培開始の時期

2014年、2016年及び2017年は、2月中旬播種(5月中旬収穫)の「蒼の砦」と「トッランナー」のパスライト1重被覆で、抽台はほぼ発生しませんでした。一方、2015年は、この時期に曇雨天の日が多く被覆下の温度が上がらず、その後の好天で花芽の形成が促進されました。このため、「トッランナー」を含む一般的な晩抽性の品種では、抽台率が6割以上になりましたが、「蒼の砦」では13%に抑えられました。また、2重被覆にすることで、「トッランナー」でも抽台が6%に抑えられました。このように、2月中旬播種では、「蒼の砦」は1重被覆で問題ありませんが、「トッランナー」は2重被覆の方が安心です。



写真2 「蒼の砦」(上)と「トッランナー」(下)

5 おわりに

香取市や山武市など内陸部の地域では、当研究室のある旭市飯岡地区よりも気温が低いため、播種を2月中旬より1~2週間遅らせる必要があります。地域の気温を確認し、べたがけ栽培の導入を検討してください。

頑張る産地



北総地域のカーネーション産地を支える若手生産者

香取農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 藤澤 由美子

北総地域では、香取・海匝・印旛地域等でカーネーション生産が行われています。中でも香取地域の『水郷花卉園芸組合』では、若手生産者 4 名がこれからの“北総のカーネーション”生産を支える担い手として頑張っています。

1 北総地域のカーネーション生産

千葉県のカerneーションといえば安房地域が代表産地ですが、香取・海匝・印旛地域等の北総地域でも昭和 40 年代から栽培が始まりました。大産地ではありませんが、個選中心で品質に定評のあるカーネーション生産を行っています。

その中でも香取地域の『水郷花卉生産組合』では、カーネーション生産の向上に向けて、2 代目の若手生産者が頑張っています。



良品生産を目指すカーネーションほ場

2 若い後継者が取り組むカーネーション生産

『水郷花卉園芸組合』は、香取市と東庄町の 6 戸のカーネーション生産者で組織されており、作付面積約 2 ha、年間約 230 万本のカーネーションを生産しています。現在は、30 歳代から 40 歳代の若手生産者 4 名が中心になり、土壌診断に基づく施肥検討や先進地視察研修会などの研究活動に取り組んでいます。

○ **特徴のある生産** 4 名は、スタンダードの主流品種で勝負する者、豊富な品種バリエーションやこだわりの品種を持つ者等、特徴を出した生産を行っています。市場での評価はもちろん、千葉県フラワーフェスティバルや関東東海花の展覧会の共進会での高い評価を得ています。

○ **土壌改善の取組** 親の世代からの 40 年以上の連作ほ場で良品を作り続けるために、特に力を入れてい

ます。4 月の出荷の一番忙しい時期に土壌を採取し、5 月に改植に向けた土壌診断の検討会を開催しています。元肥中心の施肥方法から、カーネーションの生育に合わせて液肥で調節する方法を取り入れるなど、改善を行っています。今後は、更なる生産改善に向けて、環境制御技術や ICT の導入も研究していきます。

○ **新品種検討会の開催** 海匝地域の「干潟花き組合」と合同で開催しています。この検討会は印旛地域の生産者にも声をかけ、北総地域のカーネーション生産者が年に一回一堂に集まる貴重な情報交換の場となっています。

○ **先進地視察研修会** 昨年、組合としては初めて安房地域若手カーネーション生産者が主催した交流会に参加しました。県内外から 30 名以上の若手生産者が集まり、圧倒されながらもカーネーション談義に花が咲き、これからの生産に向けて大きな刺激を受けました。



新品種検討会で来年の品種を真剣に選ぶ

3 これからのカーネーション生産に向けて

花きの市場価格の低迷や経費の高騰など、花き経営を取り巻く状況は決して楽なものではありません。

北総のカーネーション若手生産者は、堅実で個性のある、良品カーネーションを生産する産地の担い手として、今後の活躍が期待されます。

野菜ニュース



遺伝子診断によるイチゴ苗の炭疽病検査技術の改良

農林総合研究センター 生物工学研究室
研究員 中田 菜々子

これまでに開発した「遺伝子増幅法を用いたイチゴ炭疽病潜在感染苗の迅速診断技術」について、手順の省力化と現地生産圃場等での導入効果の実証を行いました。本検査によって炭疽病に感染した親株を検出し、4月中旬までに圃場から除去することで効果的な防除が可能になります。

1 はじめに

イチゴ炭疽病は苗を枯死させるため、イチゴ生産において経済的ダメージの大きな病害です。本病は、病原菌が苗に感染してもすぐには発病せず、外観からでは健全苗との区別が難しい潜在感染期間があります。この潜在感染した苗が育苗圃や本圃に持ち込まれると、伝染源となって被害が拡大します。したがって、潜在感染した苗を早期に発見し、圃場から除去することが重要です。

農林総研では、これまでに他県や大学等と共同で遺伝子増幅法を用いたイチゴ病害潜在感染苗の迅速診断技術を開発しました。本技術をより活用していただくために、手順の省力化や導入効果の実証試験を行ったので報告します。

表 遺伝子診断によるイチゴ苗の炭疽病検査手順

作業工程	作業内容	作業時間 /20検体
① 試料採取	検査対象株の最外葉2枚を採取	約30分
② 試料調製	葉を水と70%エタノールで洗い、葉柄基部を切断して前培養用チューブに入れる	約40分
③ 前培養	28℃で72～120時間静置培養(10株バルク検査は72～96時間)	特になし
④ DNA抽出	培養液からMagEx1/4法によりDNA抽出	約2時間 20分
⑤ PCR(遺伝子増幅)	冷凍保存してある反応液を用いてPCRを行う	約4時間
⑥ 電気泳動・判定	PCR反応液を電気泳動し、紫外線ランプ上で写真撮影	約40分

2 検査の省力化

今回改良した検査手順は表のとおりです。これまでは③前培養(菌を増殖させる処理)の際に振とう機が必要でしたが、培地を改良することで振とうせずに病原菌を検出できるようになりました。したがって、手順の②、③は農業事務所等でできるようになり、専用機材が必要なために農林総研で実施する作業(④～⑥)は1日で終わります。

3 検査の導入効果

炭疽病菌を接種した苗を親株10株中に4株混ぜて3月中旬に定植し、ガラス温室のベンチ上で育苗を行いました。育苗期間中は頭上かん水で殺菌剤無散布でしたが、検査で炭疽病菌が検出された親株(発病前)を4月中旬に除去したベンチでは、9月末まで全ての子苗に炭疽病が発生しませんでした。一方、5月下旬以降に苗が萎れ始めてから感染親株を除去したベンチでは、子苗の7%が発病しました。このことから、検査によって確認された育苗圃場の感染親株を4月中旬までに除去することで炭疽病を効果的に防除できることが分かりました。

また、現地生産圃場において親株に対する検査導入の効果実証を行いました。全ての親株を検査し炭疽病菌が検出された株を除去して育苗を行った圃場の本圃では発病が認められず、検査を行わなかった圃場では発病が認められました。このことから、親株に本検査を導入することで本圃での炭疽病の発病を抑える効果があると考えられ、検査する株の割合を高めることでより効果的に防ぐことができると考えられます。多検体の検査に有効な、10株分をまとめて検査する10株バルク検査についても、おおむね左表と同じ手順で実施できます。

第67回関東東海花の展覧会 開催の御案内

関東東海花の展覧会は、関東東海地域12都県の切り花や鉢花など約2,000点が集まる日本で最大規模の伝統ある花の展覧会です。千葉県からは、約200点が出品予定です。是非、御来場ください。

- 1 主催: 関東東海地域1都11県(千葉県を含む)及び全国花き関連6団体
- 2 会期: 一般公開(入場無料)
平成30年2月2日(金)～2月4日(日)
(公開時間) 2月2日(金) 12:00～18:00
2月3日(土) 10:00～18:00
2月4日(日) 10:00～12:30
- 3 場所: 東京都豊島区東池袋3-1-4
サンシャインシティ文化会館2階
展示ホールD
- 4 内容:
花き品評会、フラワーデザインコンテスト
花の装飾展示、フラワーアレンジメント教室、
展示品の即売等
- 5 問合せ先: 県生産振興課園芸振興室
電話: 043-223-2871



花と来場者で賑わう展覧会会場(第66回)

千葉県立農業大学校 「庭園設計と作庭講座」募集

植木生産者や造園業者、本講座に興味のある方を対象に、庭園の設計図の描き方の解説及び設計した小庭園づくりの講座を開催します。

日 時: 平成30年2月21日(水)～23日(金)
(午前10時から午後4時まで)

場 所: 千葉県立農業大学校

講 師: (有)重森庭園設計研究室
代表 重森千青 先生

定 員: 先着30名
(3日間連続で受講できる方のみ)

受講料: 無料
(ただし、テキスト「だれにもできるやさしい造園図面の描き方」、
傷害保険料等2,400円程度実費負担)

申込方法: 講座名、所属、氏名、住所、
郵便番号、電話番号、
テキスト希望の有無、を記入の上、
平成30年1月16日(火)から
2月13日(火)の期間に郵送、FAX
又は持参。

申込先: 千葉県立農業大学校農業研修科
(担当 真行寺)
〒283-0001 東金市家之子1059
電話: 0475-52-5140
FAX: 0475-54-0630



千葉県立農業大学校